

岩手県(pH2.8~3.2)



施工前



9ヵ月後

佐賀県(pH2.2)

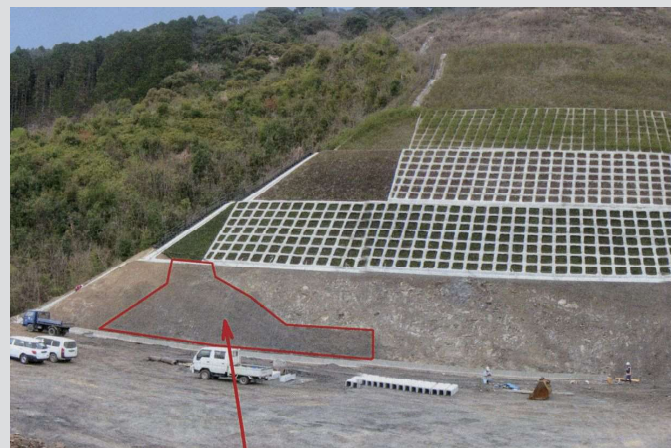


施工前



2年5ヵ月後

大分県(pH2.8~2.9)



施工前

(強酸性土壌)



5ヵ月後

NETIS QS-030056-VE 登録掲載期間終了

強酸性土壌対策工

アルプラス工法[®] PAT



東興ジオテック株式会社



本社 / 〒104-0061 東京都中央区銀座 7-12-7

TEL.03-3456-8761

<https://www.toko-geo.co.jp/>



東興ジオテック

アルプラス工法は、貝殻をリサイクルした酸性矯正材「シェルレミディ」を使用する強酸性土壌対策工法です。

特 長

- ◆ pH4.0以下の強酸性土壌を緑化する工法です。
- ◆ シェルレミディは、臨海施設や養殖産業から発生する貝殻を原料とするリサイクル資材です。
- ◆ シェルレミディは水に溶けないので水環境を汚染する心配がありません。
- ◆ 貝殻のカルシウムの力で強酸性土壌を中和して植生を回復させます。
- ◆ 炭酸カルシウム(炭カル)などの一般的な中和材と比較して効果が長期間持続します。
- ◆ シェルレミディはさまざまな緑化工法に使用できます。

■ 施工後短期間で植生が衰退し、さらに金網が腐食して表層崩落した強酸性土壌(pH 2.0)の法面



pH4.0以下の法面に対策なしで通常の植生工を適用しても植物の良好な生育はのぞめません。

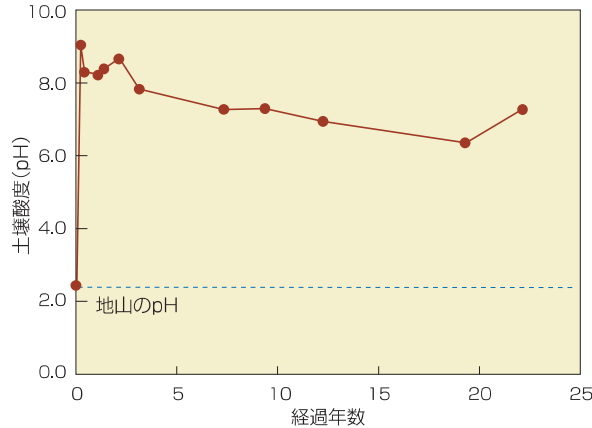
シェルレミディの効果

■ シェルレミディ



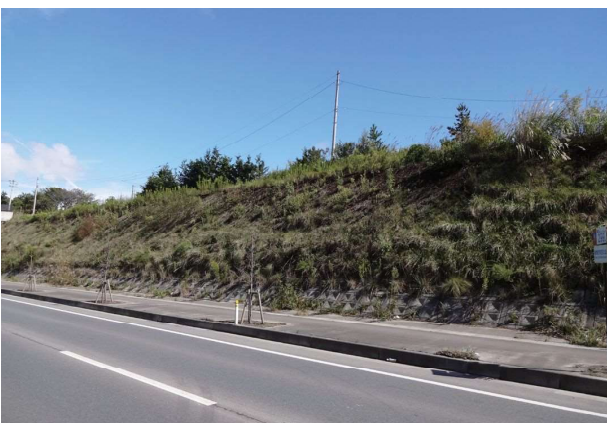
シェルレミディ

■ 土壌酸度の経年変化

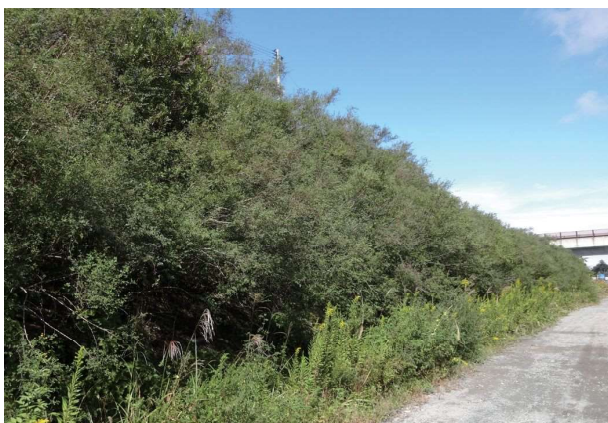


pH2.5の法面にアルプラス工法を適用した現場の経年変化です。酸性矯正効果が長期間持続していることがわかります。

■ アルプラス工法と従来工法との比較(施工8年後)



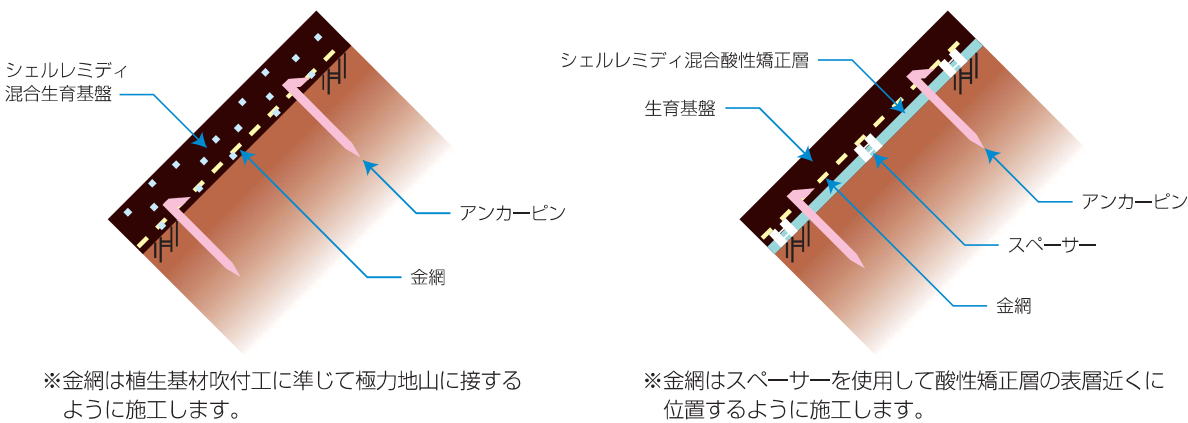
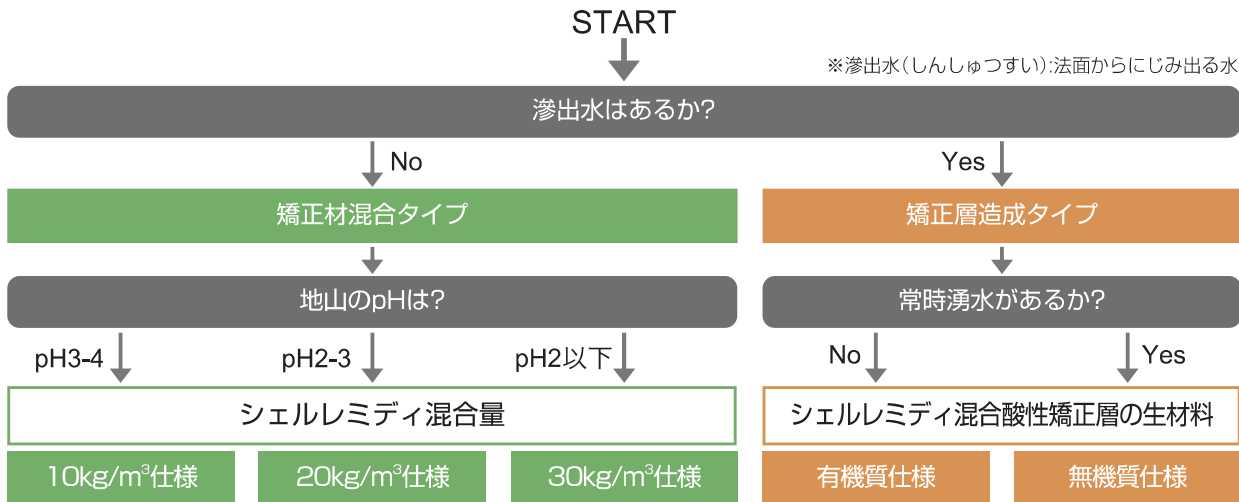
従来工法(炭酸カルシウム)
効果が持続せず、植生が早期に衰退します。



アルプラス工法
効果が持続するので、植生が衰退することなく良好に生育します。

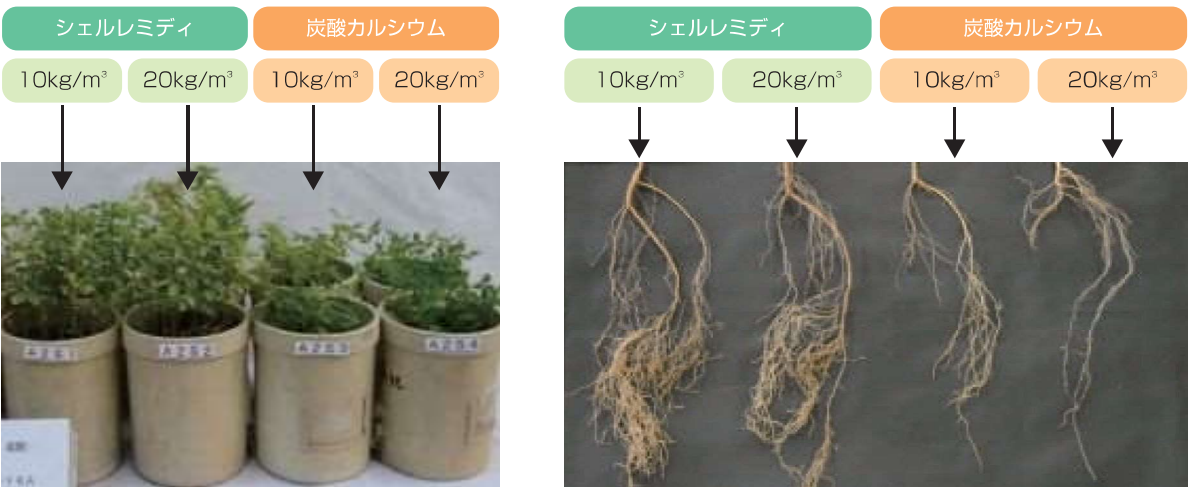
工法選定フロー

アルプラス工法には、シェルレミディを生育基盤に混合して吹付ける「矯正材混合タイプ」と、シェルレミディを混合した酸性矯正層を造成し、その上に生育基盤を吹付ける「矯正層造成タイプ」があります。



■ 強酸性土壌におけるシェルレミディ混合比較試験

シェルレミディは、炭酸カルシウムと比較して強酸性土壌の環境下においても根系が良好に発達するので、植物の健全な生長が期待できます。



ヤマハギ地上部(3ヵ月後)
※実験／東京農工大学 地域環境科学部 治山緑化学研究室

ヤマハギ地下部(3ヵ月後)